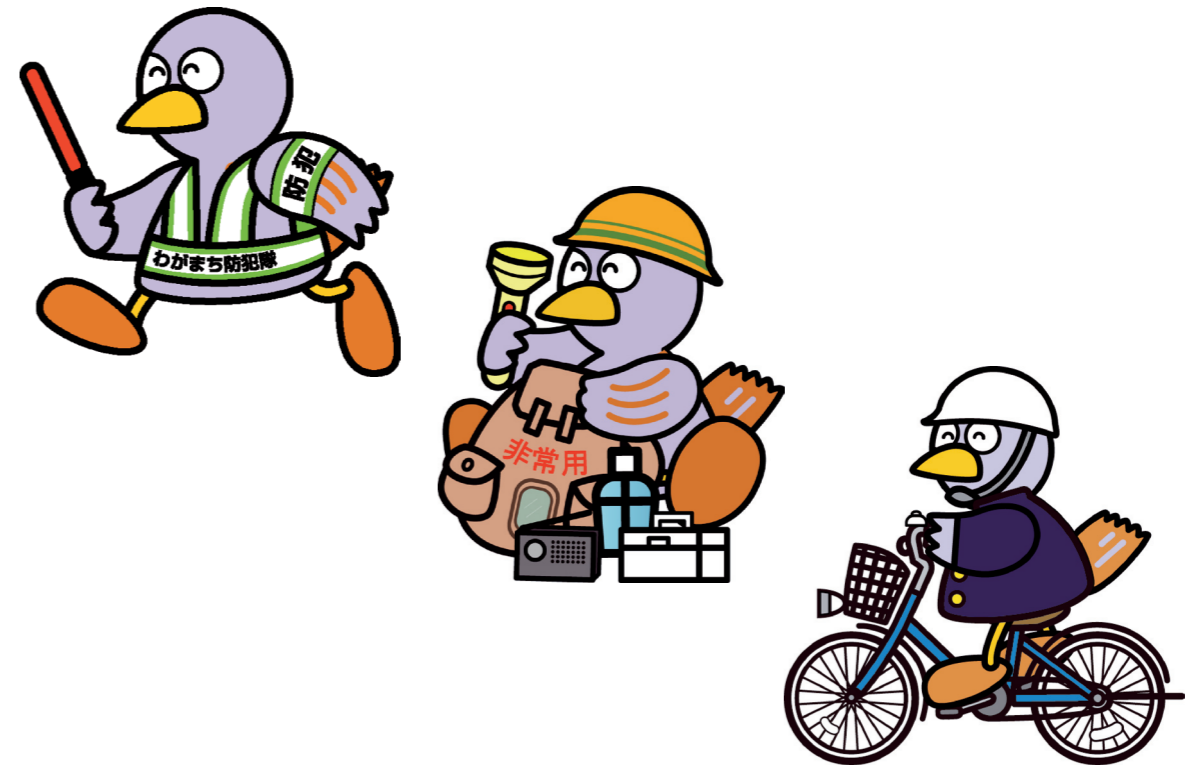


令和元年度「学校安全総合支援事業」

児童生徒の「安全に関する資質・能力」の育成を目指して



埼玉県マスコット「さいたまっち」



埼玉県マスコット「コバトン」

令和2年2月
埼玉県教育委員会

挨拶

学校は、児童生徒が集い、人と人との触れ合いにより、人格形成がなされる場です。「生きる力」を育む学校という場において、子供たちが生き生きと活動し、安全に学べるようにするためには、子供たちの安全の確保が保障されることが不可欠の前提となります。さらに、児童生徒等は守られるべき対象であることにとどまらず、学校教育活動全体を通じ、自らの安全を確保することのできる基本的な資質・能力を継続的に育成していくことが求められます。

さて、県では、文部科学省から「学校安全総合支援事業」を受託し、これまでに蓄積した防災をはじめとする先進的取組を踏まえながら、継続的で発展的な学校安全に係る取組を地域が一体となって推進している学校、学校安全の組織的取組、外部専門家の活用、学校間の連携をはじめ、地域の学校安全推進体制の構築に向け、積極的に取り組む地域や学校を支援しております。

具体的には、モデル地域として川越市、三郷市にそれぞれの学校や地域の実情に応じて、学校間や地域、関係機関との連携を図った学校安全の充実・発展に資する実践にお取り組みいただきました。その際、学校安全アドバイザーとして、慶應義塾大学環境情報学部准教授・大木聖子様、熊谷地方気象台気象情報官・中村佳之様、地震津波防災官・田中智巳様に御指導をいただき、おかげをもちまして、2市はもとより県内各学校での安全教育の一層の推進につなげることができました。

災害ボランティア事業では、「高校生災害ボランティア育成講習会」を実施し、学校や地域における支援者としての自覚や、安全で安心な社会づくりに貢献する態度の育成に取り組みました。

また、交通安全教育では、県立寄居城北高等学校、県立久喜北陽高等学校の2校を交通安全教育推進校に指定し、生徒や地域の交通状況の実態に応じた実践にお取り組みいただきました。さらに、東西南北4地区の会場で、自転車安全運転推進講習会を開催しました。本講習会は、講習を受講した高校生が、自校生徒に対して講習内容を伝達することにより、交通安全意識の向上を図り、高校生の自転車交通事故防止の一助となっております。

本事業の推進に当たりましては、埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科教授・高橋宏至様をはじめとする県推進委員の皆様、そして、モデル地域の川越市、三郷市の教育委員会及び拠点校、交通安全教育推進校、関係の皆様にご改めまして感謝申し上げますとともに、埼玉県の学校安全に関する取組がさらに充実・発展することを期待し挨拶といたします。

令和2年2月


埼玉県教育局県立学校部保健体育課長 伊藤 治也

令和元年度「学校安全総合支援事業」埼玉県事業報告書

目 次

1	事業概要・事業展開	1
2	事業報告	
◆	川越市の取組	2
	川越市教育委員会	
	川越市立霞ヶ関西小学校 川越市立霞ヶ関西中学校	
◆	三郷市の取組	5
	三郷市教育委員会	
	三郷市立栄中学校 三郷市立早稲田中学校 三郷市立新和小学校	
	三郷市立早稲田小学校 三郷市立丹後小学校 三郷市立後谷小学校	
◆	高校生災害ボランティア育成講習会	7
◆	高校生の交通安全教育推進校実施報告書	10
◆	高校生の自転車安全運転推進講習会（県内4地区）	12
3	埼玉県成果発表会	13
◆	【講評】気象庁熊谷地方気象台気象情報官	
	中村 佳之	14
◆	【講演】慶應義塾大学環境情報学部准教授	
	大木 聖子	15
4	埼玉県推進委員会委員及び学校安全アドバイザー等一覧	26

2 事業報告



川越市マスコットキャラクター
と き も

令和元年度 学校安全総合支援事業報告

川越市の取組

川越市教育委員会
川越市立霞ヶ関西小学校
川越市立霞ヶ関西中学校

1 川越市の概要

川越市は、埼玉県の中央部よりやや南部、武蔵野台地の東北端に位置している。人口は35万人を超え、平成15年には埼玉県内で初めて中核市に移行した。都心から30キロメートルの首都圏に位置するベッドタウンでありながら、商品作物などを生産する近郊農業、交通の利便性を生かした流通業、伝統に培われた商工業、豊かな歴史と文化を資源とする観光など、充実した都市機能を有している。なお、市立学校数は小学校32校、中学校22校、特別支援学校1校、高等学校1校である。

川越市教育委員会では、初任者研修等の経験者研修や、教科等研修など、本市の実態に合った独自の教職員研修を企画し実施している。平成28年度からは、安全教育の質を高めるため、安全教育研修会を新規に企画し、毎年、その年度に各校に伝達すべき内容を精選して実施している。今年度、本事業の再委託を受け、モデル校を中心に安全教育についての研究を行った。

2 川越市の取組について

(1) 目的

主体的に行動できる児童生徒の育成を目指す安全教育の推進

(2) 組織

埼玉県学校安全アドバイザー、市教委担当課長、担当指導主事等、
校長、教頭、安全教育主任等、PTA役員・自治会長等

(3) 実践・取組

ア 緊急地震速報端末を利用した避難訓練

通常の避難訓練の他に、各校で防災週間等を定めた上で、「ショート訓練」を実施した。授業中や休み時間など、様々な場面を想定し行うことで、場面に応じた適切な行動を、児童生徒自らの判断で行えるようになってきている。

イ 外部講師を招いた交通安全教室

小学校では年度当初や2学期に、中学校では学校総合体育大会前に外部講師を招き交通安全教室を実施した。

ウ アドバイザーによる出前授業（講師：慶應義塾大学 准教授 大木聖子氏）

災害が起きた際に取りべき適切な行動について考えたり、避難所運営について考えたりする教材などで、防災意識を高めるための出前授業を実施した。出前授業は、各回公開することで市立学校への周知を図った。



【小学校2学年】
災害時にとるべき適切なポーズについて楽しく学ぶ授業



【小学校3学年】
災害時にとるべき適切な行動について写真を使って学ぶ授業



【中学校3学年】
避難所運営の4コマ漫画自分たちにできることについて考える授業

エ モデル校の教員による授業（教科等横断的な学習の充実）

ウの出前授業の内容について、後日、モデル校の教員も授業を行った。また、学級活動や理科の授業で、防災の視点を意識した授業も実施した。なお、これらの授業も市立学校対象の公開授業とした。



【小学校1学年】
災害時にとるべき
適切なポーズについて
楽しく学ぶ授業



【小学校4学年】
災害時にとるべき
適切な行動について
写真を使って学ぶ授業



【中学校特別支援学級】
災害時に考えられること
防災ポーチの中身
について考える授業



【中学校2学年】
避難所運営の4コマ漫画
自分たちに行きできること
について考える授業

オ 情報の共有化

ウの出前授業での教材等については、庁内サーバに保存し、各校で活用できるようにした。

カ 安全教育研修会（対象：市立学校 管理職1名と安全教育主任）

各校2名参加の悉皆研修として、今年度は大木氏を講師に招き、防災教育について研修を行った。同一校区での校種間グループで、各校の避難訓練について、大木氏の講義の中の視点で協議した。管理職の視点と、安全教育主任の視点とで様々な意見が出され、各校の実態を振り返るとともに今後の課題について考えることのできる研修会となった。なお、本研修会内でモデル校の1学期の取組についても全校へ周知した。



キ 避難訓練実施レポート

大木氏に依頼し、避難訓練を計画したり、振り返ったりすることで見直しを図ることのできる「避難訓練実施レポート」の様式を作成した。これは、各校で避難訓練の際に活用できるようにしている。今後は、本レポートを生かし、課題や改善点を全校で共有できるシステム作りを目指していく。



ク モデル校合同の校内研修（夏季休業中に実施）

大木氏を講師に招き、モデル校合同の校内研修を実施した。これは、校種間連携の視点で、今後の防災教育の在り方について考えていく内容とした。



ケ 保護者の安全意識の高揚（家庭との連携）

地域の消防署と連携したPTA家庭教育学級における心肺蘇生・AED活用法の講習会や、教員とPTA役員合同による交通安全・防災・防犯面からの通学路点検を行った。



コ 親子で学ぶ防災理科教室

夏季休業中に公民館を会場として、霞ヶ関西小学校の希望する児童対象（学年不問）に大木研究室による防災理科教室を開催した。「地球の中をのぞいてみよう」と題し、コンピュータグラフィックスを用いて地球内部を視覚的に理解したり、粘土を使って地球の模型を工作したりすることで、地球の構造について学習した。その後、「どうして地震が起きるのか」についても学習する内容として、親子で学べるものにした。



数種類の色粘土を使って地球の模型を工作し、それを輪切りにして地球の構造を理解した。

サ その他の取組

1月 ① 警察署の協力のもと、不審者対応の避難訓練を実施

（霞ヶ関西小：1月20日 霞ヶ関西中：1月9日）

② 防災小説の発表会を実施（霞ヶ関西中3年生：1月10日）

※「防災小説」では、具体的な日時と天気を教員が指定した上で、まだ起きていない未来の地震が発生したかのように生徒が自分自身に起きることを想像しながら小説にしていく。条件は、「小説を明るく終えること」で、災害を自分事として捉えることができることともに、様々な視点から物事を考えることで防災意識を高めることのできる教材である。大木氏を講師に招き、導入部分の授業を実施し（12月5日）、その後、教員の指導のもと生徒が小説を書きあげ、代表生徒が発表した。

③ 大木氏を講師に招き、水害についての出前授業を実施

（霞ヶ関西小6年生：1月21日）

2月 ① 理科の授業で防災の視点を意識した授業を実施

（霞ヶ関西中1年生：2月4日）

② 地域医療機関から医師を講師として招き、心肺蘇生法・AEDの活用についての授業を実施（霞ヶ関西小6年生：2月7日）

※本授業では近隣県立高等学校とも連携し、看護師を志す高校生が授業サポーターとなり実施した。

③ ASUKAモデルについて、外部講師を招き校内研修を実施

（霞ヶ関西小教職員：2月10日）

3 成果と課題について

（1）成果

ア モデル校の教職員や児童生徒の安全に関する意識が向上した。

イ 児童生徒の避難訓練等での第1次避難行動も的確になってきており、主体的な行動がとれるようになってきている。

ウ 学校安全体制の構築について、安全教育主任を中心にして着実に進められるようになってきた。

（2）課題

ア 実践をより一層精選し、他校でも参考となるよう教育課程を編成する。

イ モデル校での取組を、他校でも実践できるようなシステムの構築を図る。

ウ モデル校区では地域との密接な関係が根付いているが、学校安全について更なる連携を図っていく必要がある。



三郷市の取組

三郷市教育委員会
 三郷市立栄中学校
 三郷市立早稲田中学校
 三郷市立新和小学校
 三郷市立早稲田小学校
 三郷市立丹後小学校
 三郷市立後谷小学校

1 三郷市の概要

三郷市では、「三郷の教育 四つの礎」として「授業改善」「日本一の読書のまち三郷の推進」「家庭教育の充実」「夢への挑戦」を柱とし、「かけがえのない子らの命あずかり夢を育む教育」を推進している。

三郷市の学校防災教育は、消防署との連携を密にし、児童生徒の『自ら命を守り抜こうと「主体的に行動する態度」の育成』に取り組んでおり、平成20年度から市内全中学校2年生を対象として、消防署によるAED使用を含む救命講習を実施している。また、小学校においては、児童を対象に、消防署員の指導の下、平成24年度から着衣泳法講習会を、平成25年度から心肺蘇生法の実技講習会を実施している。

今回の事業では、栄中学校をモデル校、早稲田中学校、新和小学校、早稲田小学校、丹後小学校、後谷小学校をモデル地域にある学校とし、防災教育を実践した。栄中学校は三郷市教育委員会委嘱「防災教育研究推進校」でもあり、他の人々や地域の安全に進んで役立てる生徒の育成に取り組んだ。



2 三郷市の取組について

(1) 目的

自ら命を守り抜こうと「主体的に行動する態度」の育成

(2) 組織

埼玉県学校安全総合支援事業三郷市実践委員会を組織し、本事業を推進する。本実践委員会は、年3回開催し、栄中学校の研究発表の事前検討等を行った。

三郷市実践委員会
25名

・実践校小・中学校長、安全主任、PTA会長
 ・市危機管理防災課 ・市消防署 ・市教育委員会

(3) 実践・取組

ア これまでの研究経過

- 平成28年度（北中、幸房小、彦成小）「自分の地域は自分たちで守る」をテーマに通報体験・消火器体験や小中連携した救急救命訓練・一斉下校の実施。
- 平成29年度（彦成中、桜小、立花小）避難所開設訓練を主軸とした実践をもとに、救急救命訓練・非常食試食体験などの小中合同避難訓練を実施。
- 平成30年度（早稲田中学校、丹後小学校、後谷小学校、前瀬小学校）早稲田中学校区として避難所開設訓練、AEDを活用した心肺蘇生、防災に関する公開授業（学級活動）を実施。

イ 令和元年度の研究内容

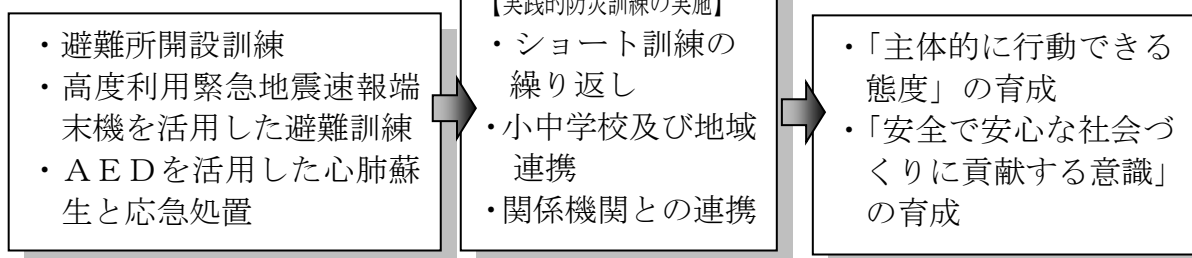
○実践校

モデル校：栄中学校



モデル地域にある学校：早稲田中学校、新和小学校、早稲田小学校、丹後小学校、後谷小学校

○取組視点



○各取組

高度利用緊急地震速報端末機（市内全27小・中学校に設置完了）を活用した避難訓練

- ・瞬時に身の安全を確保し、避難行動が正しく落ち着いて行えるよう授業中、昼休み、清掃活動中、給食時間、帰りの会等様々な場面・時間でショート訓練を実施した。



三郷市総合防災訓練（栄中学校会場）10/6

- ・栄中学校の生徒と新和小学校の児童が参加し、バケツリレー訓練に参加した。（雨天のため、心肺蘇生法とAEDの実演や担架等での救助訓練は中止となった。）

栄中学校における防災教育推進研究発表【避難訓練・避難所開設・公開授業・心肺蘇生法】11/15



- ・埼玉県学校安全アドバイザーの田中智巳氏（気象庁熊谷地方気象台地震津波防災官）を指導者として招聘し、避難訓練・避難所開設・防災教育公開授業・心肺蘇生法を実施した。

【避難訓練】震度6強の地震を想定し、校庭に一時避難させた。

【避難所開設】体育館に居住スペースや医療スペース等の簡易テントを設営した。

【公開授業】1学年「非常持ち出し袋の中身を考える」2学年「応急手当」3学年「災害時の行動と問題点や改善点を考えよう」（学級活動）

【心肺蘇生】栄中学校の生徒が新和小学校に出向き、心肺蘇生講習を実施した。

3 成果と課題について

(1) 成果

- ア 「高度利用緊急地震速報端末機」を活用したショート訓練を通して災害発生から避難行動まで適切に「一時避難できる行動」が定着してきた。
- イ 避難所開設訓練や防災授業などの学習を通じて「自助・共助・公助」の意識が高まり、防災を「自分たち事」として意識することができた。

(2) 課題

- ア 地域住民等と連携した避難所開設について、研究を進める必要がある。
- イ 地震や火災対応以外（水害・竜巻等）の避難方法等について、研究を進める必要がある。

高校生災害ボランティア育成講習会

講習会の内容

この講習会の内容は、令和元年8月9日、「埼玉県成果発表会」(さいたま市民会館うらわ)で、本講習会参加代表生徒として、県立栗橋北彩高等学校の生徒が報告した内容を編集したものです。

1 救急救命に関する講習



救急救命に関する講習では、心肺蘇生の方法と手順、AEDの操作方法を消防士の方々に丁寧に教えていただきました。
事故現場では、まず、倒れている人に近づく勇気が大切だと感じました。
AEDを使用するには少し不安と抵抗がありましたがAEDは音声で指示してくれるので、初めてでも使用することができると感じました。また、日頃からAEDがどこにあるか、意識しておきたいと思います。

2 防災学習センター施設体験

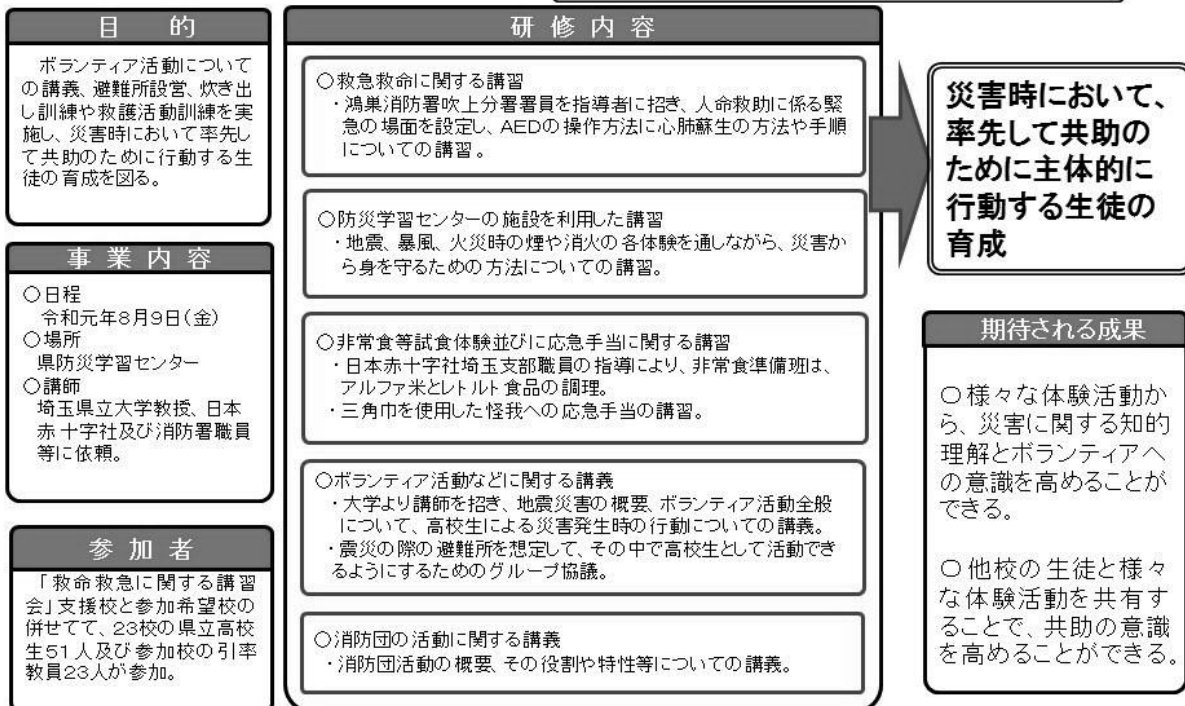


施設体験では、災害の恐ろしさを体験できます。
地震体験では、震度6の揺れを体感し、手すりに掴まるのが精一杯で、他に何もできませんでした。もし、教室にいるときに本当に地震が来たら、机の下にもぐれるか心配になりました。
火災時の煙体験では、できるだけ煙を吸わないように低い姿勢で煙の暗闇から脱出する避難方法を学習できました。
また、前を向けないほどの風速30メートルの暴風体験や水消火器による消火体験をしました。どの体験も驚きの連続であり、こうした体験をして、有事の際、パニックにならないようにしたいと思いました。

高校生災害ボランティア講習会

災害時における学校や地域での共助の担い手として必要な基礎的な知識を持ち、災害時のボランティアとして活動できる生徒を育成するための研修を実施する。

安全で安心な社会づくりに貢献する態度の育成



3 非常食に関する講習



この講習では、「災害時の水と食料」について学び、そのあとで実際に非常食のアルファ米とレトルトカレーを調理しました。

アルファ米は50人分が一箱になっており、お湯をかけてホカホカのご飯になりました。たくさん数を用意するのは大変だと感じました。

人数分より少なかった場合、全員が食べて、生き延びるにはどうしたらよいか、平等とは何だろうかなど考えさせられました。

4 応急手当に関する講習



三角巾を使用した応急手当を学びました。

2辺が1メートルくらいの大きな三角形なので、傷の大きさに応じて折り畳み、大きな傷や関節を覆うことを学びました。

特に、三角巾できつく結ぶと痛くなり、ゆるく結ぶと外れてしまうので、結ぶのが難しいと思いました。

優しく声をかけながら手当をすると、ケガをした人も安心できると感じました。

5 自然災害や避難に関する講義・グループ協議



講義では、地震災害について詳しく学ぶことができました。日本は世界の中でも特に地震が多い国で、東日本大震災クラスの地震がまた起こることを考え、備えておかなければならないことを学びました。

また「4コマ漫画」を使った演習を行いました。避難所運営を疑似体験し、避難所で起こる問題への対処法を考えました。災害時の自分をリアルにイメージし、自分や他の人の「命を守る力」を身に付ける演習ができたと感じました。

6 消防団活動についての情報提供



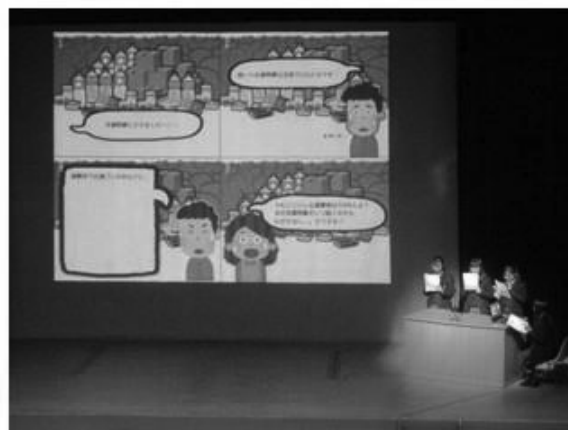
消防団による講義では、活動内容や団員数などを詳しく聞くことができました。

消防団とは、非常勤特別職の地方公務員で、他の職業を持ちながら、地域の安全を守る活動をしている方々であること。消防団員数が年々減少していること。女性消防団員が活躍していること。火災以外にも大規模の災害発生時に救助・救出、警戒巡視や避難誘導など様々な現場で活躍していることなどです。

日本各地で増えている災害に一番近くで対応しているのは、地域の消防団です。

「自分の命を守る行動が他の人の命を守る」ことを心に刻みたいと思いました。

7 全体を通して考えたこと(まとめ)



防災は・・・
興味を持った事から、
楽しく防災

県立栗橋北彩高等学校 代表生徒の意見

今回の講習会で、多くのことを学びました。

特に、人が倒れていた場合、心肺蘇生・AED・応急処置の大切さを改めて実感しました。

また、「自分の命は自分で守る」という意識を持つことの大切さも学びました。例えば、学校や自宅に非常食を用意することや登下校中も食料を携帯することなども考えていかなければならないと思いました。

私達は、安全で安心な社会づくりのために、地域の方と一緒に「防災交流会」を行っています。



また、防災の実践力を付けるために、加須市の災害ボランティアセンター立ち上げ指針に参加をしました。私達の学校も久喜市の避難所に指定されているので、避難所の看板も試作してみました。

さらに、学校では文化祭等で防災に関する掲示をしたり、手作りの「避難所＊ここですカード」というものを配布したりしました。「避難所＊ここですカード」は、いざという時の避難所は、各自に三種類が必要と考えました。一つ目は、一時避難所です。近くの広場や学校などになります。二つ目は、広域避難所です。地域全体が洪水などで被害に遭うことが予想される場合は、隣県に逃げることも検討すると良いそうです。三つ目は、収容避難所です。避難所生活を何カ月も続ける場所です。また、万が一、逃げ遅れた場合の対処法も考えておくの良いと思います。



最後に、今回の講習を受けて、防災は「今から、私から」始めていこうと思いました。防災学習センターでの体験が私達の今後に大きな刺激になりました。

興味を持った事から、「楽しく防災」を始めていきましょう。

高校生の交通安全教育推進校実施報告書

学校名	埼玉県立寄居城北高等学校
生徒数及び職員数	生徒数 655人 職員数 81人
取組の概要	<p>1 交通安全にかかわる学校の概要 本校の生徒は50%が電車通学、20%がバス通学、25%が自転車通学をしている。駅からの学校までの距離は約300mで危険箇所も少ない。 12月20日現在で登下校における事故は1件で、近隣の住民からの苦情は5件あった。苦情の主な内容は自転車の並列走行であった。</p> <p>2 交通安全に関する取組・実践 (1) 本校で例年実施している取組 ・校門での立哨指導(毎週1回、8:15~8:45) ・自転車点検(毎学期末に実施。担任によるブレーキ等の安全点検) ・サイクルマナーアップキャンペーン(寄居警察による登校指導) ・交通安全講話(寄居警察による講話)</p> <p>(2) 交通安全推進校としての取組 ア 7月10日に交通事故における損害賠償の訴訟を多く扱っている弁護士の高山先生に、自転車事故の補償問題について具体的な事例をあげながら詳しく講演していただいた。 表題 : 「法的見地からの交通事故」 講演者 : 高山俊吉 氏 会場 : 寄居城北高校体育館 対象 : 全校生徒</p>  <p>イ 11月18日 スケアード・ストレイト技法による交通安全教室を実施した。自転車による様々な交通事故を再現していただき、事故の恐ろしさを全校の生徒に伝えられたと思う。</p>  <p>3 成果と課題 通常の交通安全に関する取組に加え推進校としての取組が、生徒の交通安全に対する意識の向上につながった。特に自転車の事故防止と賠償責任に関しては、身近な問題としてより深く考える契機になったと思う。 課題については、自転車通学者と徒歩通学者のイヤホンを辞めさせることが出来ていないことである。今後、イヤホンの指導を諦めずに継続して行うこと、そして無事故を目指し取り組んでいきたい。</p>

高校生の交通安全教育推進校実施報告書

学校名	埼玉県立久喜北陽高等学校
生徒数及び職員数	生徒数 943 人 職員数 100 人
取組の概要	<p>1 交通安全にかかわる学校の概要 本校の現状としては最寄りの久喜駅から遠い（徒歩25分）こともあり、95%の生徒が自転車を使って登校している。12月までで交通事故3件・苦情5件（昨年度：交通事故17件・苦情22件）であるが、通学路は自動車の通行量も多く自転車通学の生徒に車道左側を走行するように指導しているが、路線バス・送迎バスの運行も多く危険を感じ歩道を走行する生徒もいるため、近隣の住民等から苦情もある。</p> <p>2 交通事故に関する取組・実践</p> <p>(1) 生徒・教員・保護者による定期的な登下校時間の立哨指導</p> <p>ア 「あいさつキャンペーン（正門指導）」学期8回各3日間 朝8：10～30（朝SHR8：40であるが10分前登校推進） *服装指導・自転車ステッカー確認も実施</p> <p>イ 下校指導 毎月2・3日（集団下校の多い日）</p> <p>(2) 交通安全教育推進校としての取組</p> <p>ア 交通安全講話（4月） 対 象：1年生 テーマ：「自転車の安全な利用について」 埼玉県教育委員会・埼玉県警察 *事前学習資料・交通安全運転問題にて確認</p> <p>イ 交通安全教育講座（7月） 対 象：全校生徒 テーマ：「交通安全を自らの問題として考える混合交通社会を生き抜く力を養う」埼玉県二輪車普及安全協会 *交通安全について交通の歴史・法規から考える</p> <p>ウ スケアード・ストレイト教育技法による自転車交通安全教育（9月） 対 象：全校生徒 テーマ：「模擬交通事故を見学することにより、交通安全意識の向上をさらに図る」埼玉県教育委員会 *模擬交通事故の観察による客観的事故分析</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>エ 自転車安全利用伝達講習会（9月） 対 象：全校生徒 テーマ：「自転車利用マナーの向上と交通安全」埼玉県教育委員会 *伝達講習会参加者による報告と宣言</p> <p>3 成果と課題 今年度の交通安全推進校としての取組を通じて、生徒が交通安全に対しその重要性を意識し、特に自転車の運転に対し安全でWinWinな走行を心掛けたことで、交通事故は減少の一步を踏み出している。さらに、交通安全を喚起するとともに、有効的な交通安全指導を生み出し交通事故ゼロの学校を目標として、生徒・保護者・教職員一丸となり指導していきたい。</p>

高校生の自転車安全運転推進講習会（県内4地区）

■事業の目的

高校生の自転車交通事故防止を推進するため、推進講習を受講した高校生が中心となり、自校生徒に対して自転車安全運転推進に関する取組を実施することにより、高校生の交通安全意識の向上を図る。

■各地区開催日、会場、参加者

開催日	地区	会場	参加者
令和元年8月1日（木）	東部	埼玉自動車学校	生徒77名 教員37名
令和元年8月5日（月）	西部	セイコーモータースクール	生徒85名 教員45名
令和元年7月30日（火）	南部	ファインモータースクール	生徒73名 教員37名
令和元年7月29日（月）	北部	埼玉本庄自動車教習所	生徒41名 教員21名

※参加者数合計 生徒276人 教職員140人 計416人

■講習内容

○スケアード・ストレイト技法による自転車安全教育



〈自転車模擬交通事故の見学〉

○埼玉県警本部交通総務課による講義

- ・埼玉県の高校生の自転車交通事故の現状について

○防犯・交通安全課による講義

- ・自転車安全利用五則について

○東京海上日動火災保険株式会社（県の包括的連携企業）

- ・加害事故責任と賠償保険について

○教育局保健体育課による資料・情報提供

- ・自転車の安全点検のポイントについて
- ・自校における伝達講習実施の方法について



〈開講式〉



〈各講義〉